

平成22年度 観光統計実態調査

【概要版】



写真提供：(財)沖縄観光コンベンションビューロー

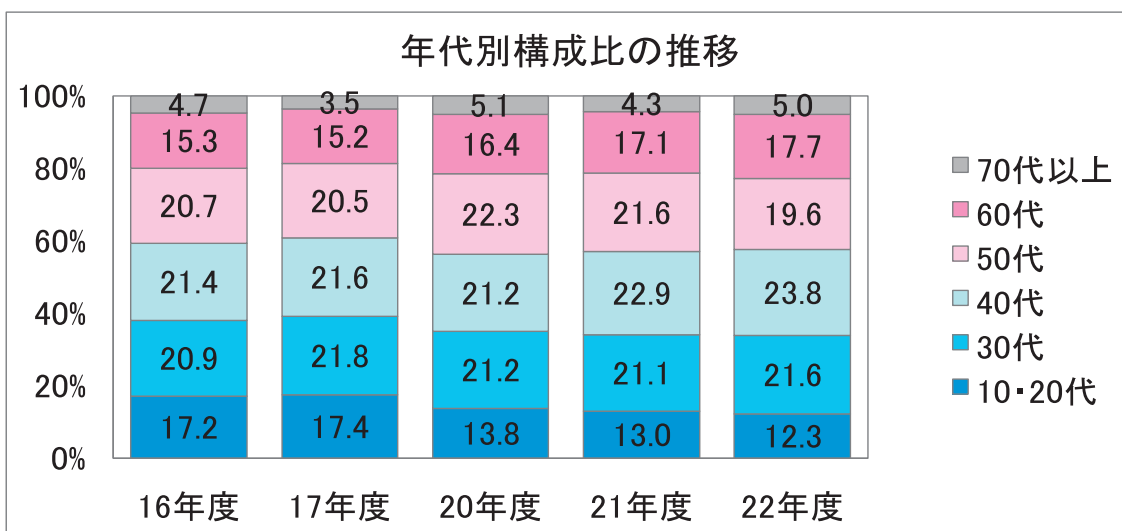
平成23年3月

沖縄県観光商工部

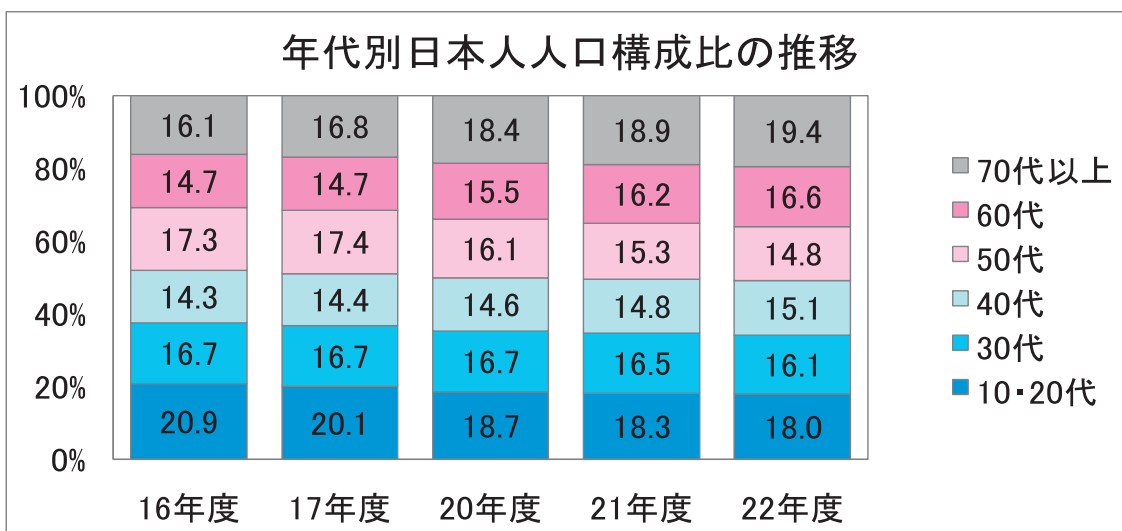
観光客の実態(外国人客を除く)

若年層が減少、40代および60代が拡大傾向

- 最も多くのシェアを占める40代はより拡大、60代も拡大続く
- 人口ボリュームが小さい10・20代の比率は年々縮小、22年度は12.3%に



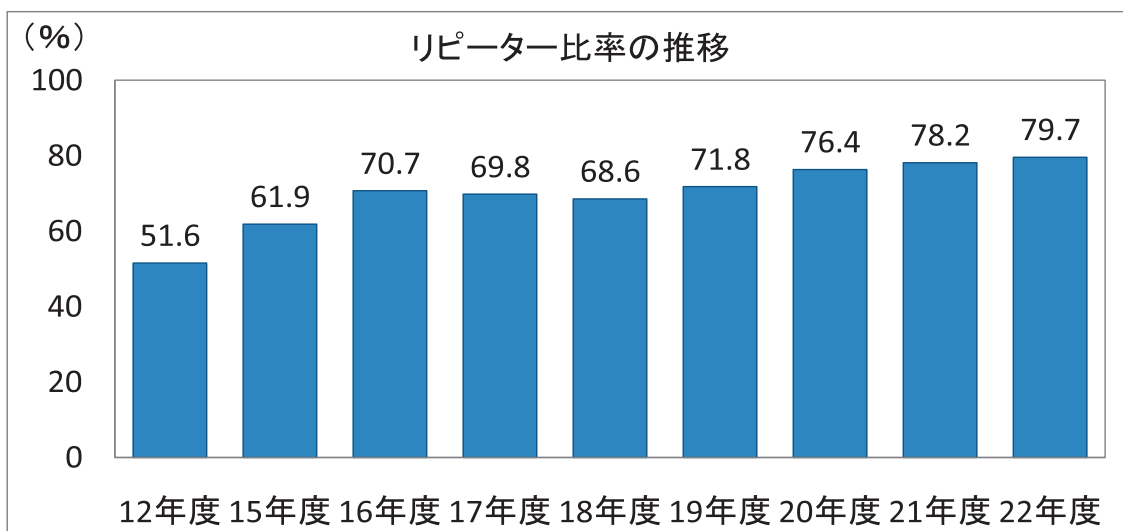
(参考)年代別日本人人口構成比の推移



※総務省「人口推計」を基に作成、各年10月1日現在の推計日本人人口
 ※10代については15～19歳のみを対象とした

リピーター比率は過去最高の79.7%に

- 来訪回数が「2回目以上」のリピーター比率は79.7%
- リピーター比率はこの10年で約3割増



観光消費額の推計

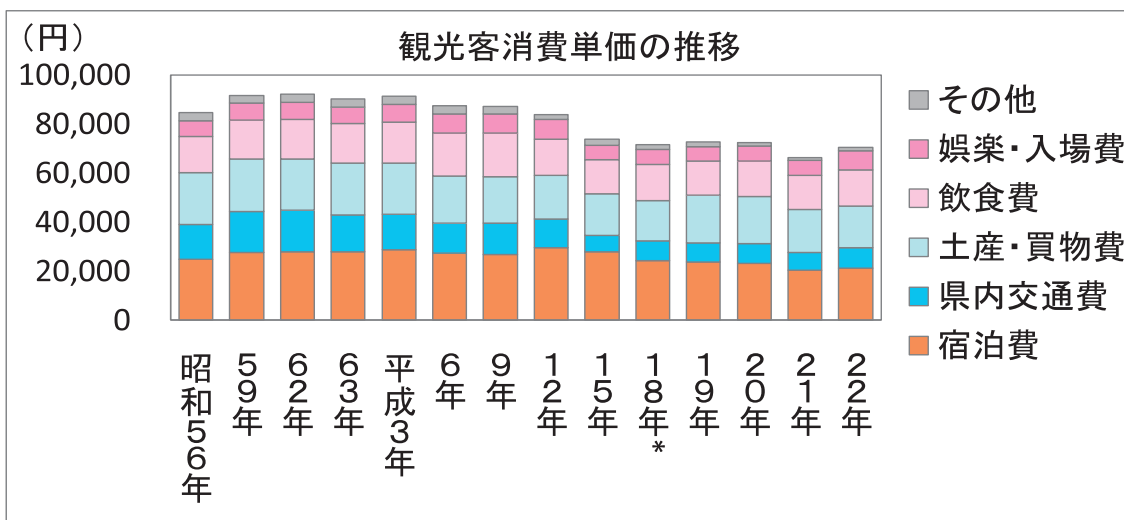
観光客全体単価は70,536円、前年度比6.2ポイント増

- 好天に恵まれたことで、春期・秋期の「海水浴・マリンレジャー」、「ダイビング」目的の来訪が増加、娯楽・入場費が大幅プラス

	観光客全体単価						
		宿泊費	県内 交通費	土産・ 買物費	飲食費	娯楽・ 入場費	
22年度	単価(円)	70,536	21,160	8,497	16,920	14,734	7,831
	前年度比	6.2%	3.4%	18.8%	-3.4%	6.4%	28.7%
春期	単価(円)	72,409	21,631	8,776	17,624	14,790	8,188
	前年度比	12.7%	12.3%	19.1%	-1.0%	11.1%	35.9%
夏期	単価(円)	77,477	23,193	9,081	16,323	17,614	9,576
	前年度比	9.5%	1.2%	17.9%	-4.1%	4.1%	3.9%
秋期	単価(円)	66,746	19,544	8,659	16,864	12,844	7,481
	前年度比	7.6%	-0.6%	17.3%	-5.9%	-0.5%	64.7%
冬期	単価(円)	63,122	19,609	7,232	17,035	12,769	5,448
	前年度比	5.9%	0.9%	18.5%	-2.4%	9.4%	37.9%

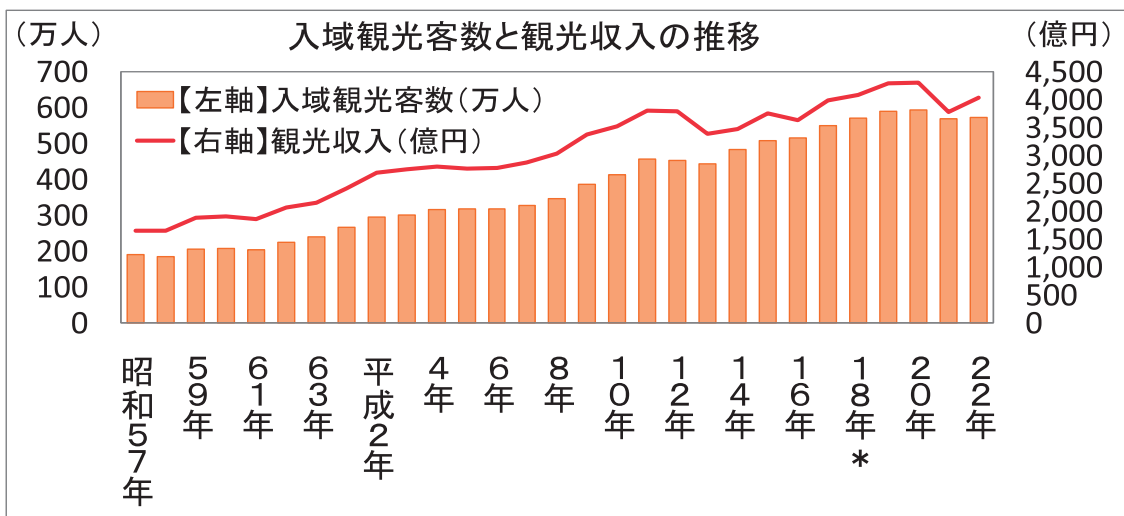
観光客消費単価は3年ぶりに前年度実績を上回る

- 「海水浴・マリレジャー」「ダイビング」「スパ・エステ」等の目的の割合が増加し、娯楽・入場費が増加
- 県内離島への来訪割合が増加し県内交通費が増加



入域観光客数の増加に伴い観光収入は回復

- 入域観光客数は前年度を上回る571.8万人
- 観光客数の回復に伴い観光収入は前年度を上回る4,033億円
- アメリカ同時多発テロ(平成13年)や新型インフルエンザ(21年)といった事件・事故発生の際は入域観光客数、観光収入が大きく減少する傾向が見られる



観光消費単価、最も高いのは夏期に多く訪れる40代

- 消費単価が高いのはピーク期の夏に高いシェアを占める30・40代
- 春期・夏期は60代がトップ、60代は土産・買物費が他の年代と比べて突出

県外客観光消費単価(年代別・単位:円)

	10・20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
22年度	69,329	73,307	73,941	68,610	72,076	64,947
春期	72,504	71,420	77,514	69,484	85,250	63,389
夏期	73,019	76,930	83,475	74,639	84,884	83,394
秋期	67,678	75,018	57,444	66,998	71,116	61,325
冬期	59,117	66,375	62,184	64,439	61,457	64,371

*外国人客は含んでいない

来訪回数、世帯年収が上の層で高い消費単価

- 来訪回数が多いほど「ダイビング」実施率が高く、滞在日数も長いことから娯楽・入場費、飲食費が高く、消費単価を押し上げる結果に
- 世帯年収「1,500万円以上」は全ての費目で突出

県外客消費単価(来訪回数別)

来訪回数	県外客消費単価(円)
初めて	68,064
2回目	69,926
3回目	67,938
4回目	71,531
5～9回目	76,328
10～19回目	74,534
20回目以上	73,333

県外客消費単価(世帯年収別)

世帯年収	県外客消費単価(円)
400万円未満	69,399
400～600万円未満	70,763
600～800万円未満	69,576
800～1,000万円未満	69,595
1,000～1,500万円未満	74,115
1,500万円以上	85,900

*外国人客は含んでいない

活動別で最も消費単価が高いのは「スパ・エステ」

- 娯楽・入場費単価が高い活動が上位を占める
- 「スパ・エステ」は“リゾートホテル”利用率が高いことから、宿泊費・飲食費が高い傾向に

県外客一人当たりの費目別消費単価(活動別・単位:円)

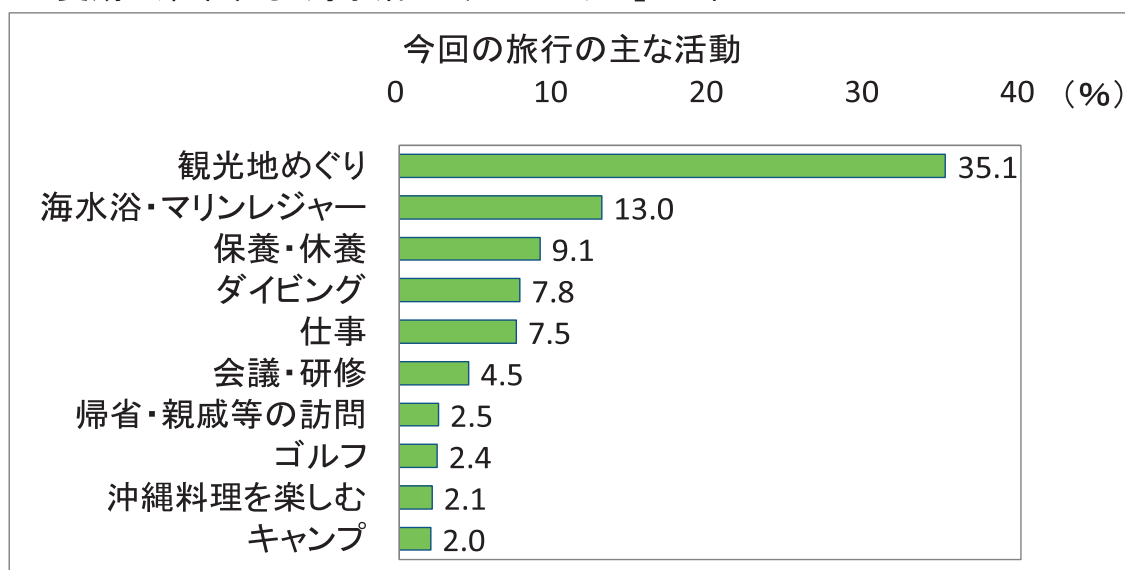
	総消費 単価	宿泊費	県内 交通費	土産・ 買物費	飲食費	娯楽・ 入場費
観光地めぐり	73,486	22,352	8,979	18,385	15,087	7,499
保養・休養	77,877	23,616	9,277	17,889	17,723	7,809
海水浴・マリンレジャー	81,565	24,289	9,905	17,131	18,442	10,275
ダイビング	90,869	22,684	8,702	13,623	15,529	28,224
ゴルフ	94,642	26,316	8,723	14,865	19,266	23,142
スパ・エステ	99,868	28,419	11,713	22,823	20,866	12,908
スポーツ大会等	75,947	23,397	10,471	20,833	14,517	5,535
ショッピング	78,519	21,772	8,810	23,091	15,395	7,928
沖縄料理を楽しむ	76,554	22,543	9,340	18,152	16,832	8,297

*外国人客は含んでいない

観光地としての沖縄の競争力に関する分析

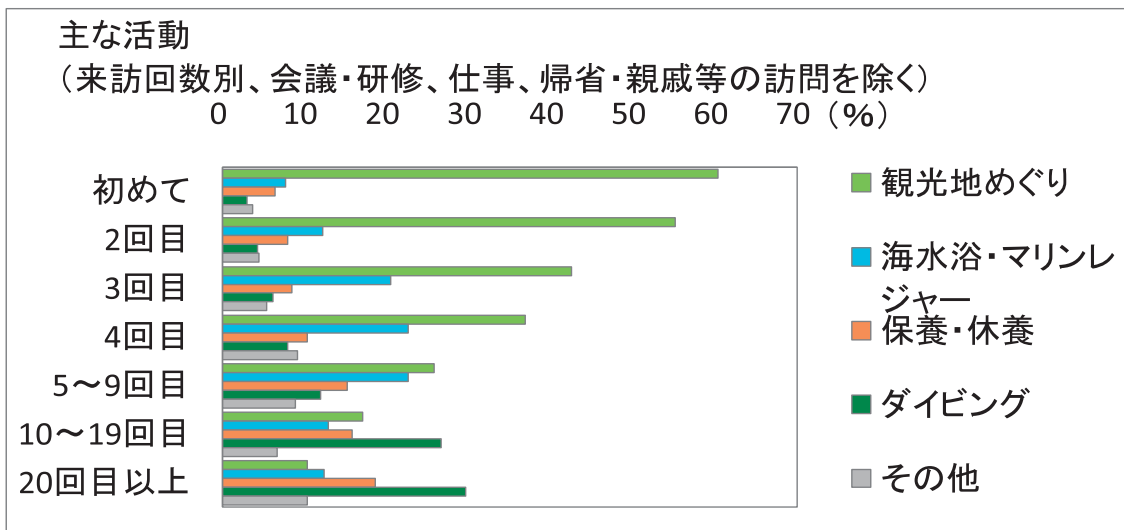
今回行った主な活動の1位は「観光地めぐり」

- 季節を問わず高い比率を示す「観光地めぐり」が35.1%と突出
- 夏期に集中する「海水浴・マリンレジャー」は2位



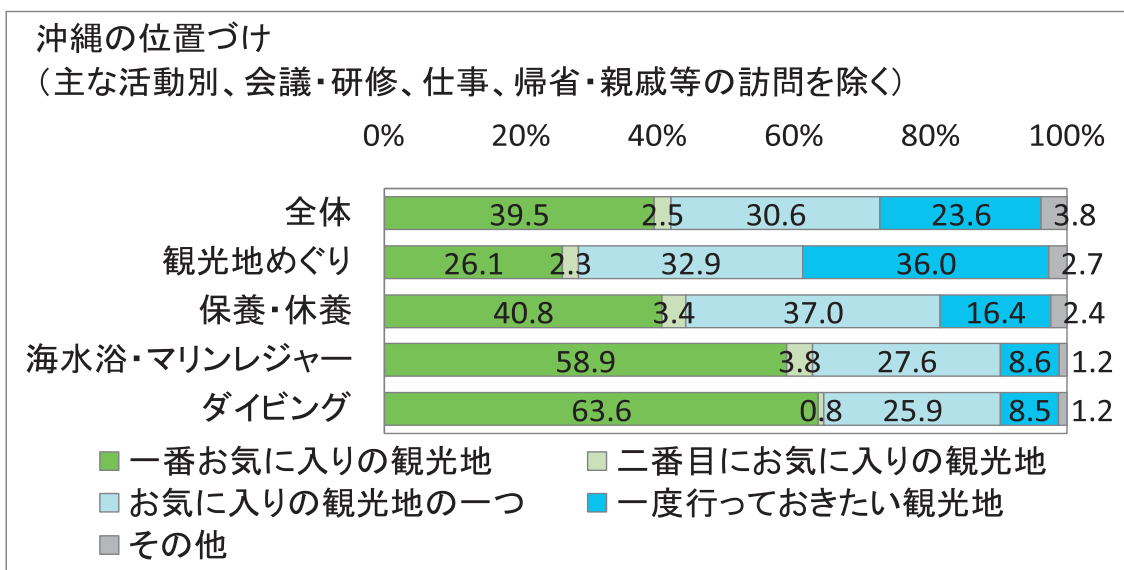
来訪を重ねるにつれ“観光”から“活動”“休養”へとシフト

- 来訪回数が少ないほど「観光地めぐり」の比率が多い
- 来訪回数が増えるに従い「観光地めぐり」以外の活動の実施率が増加



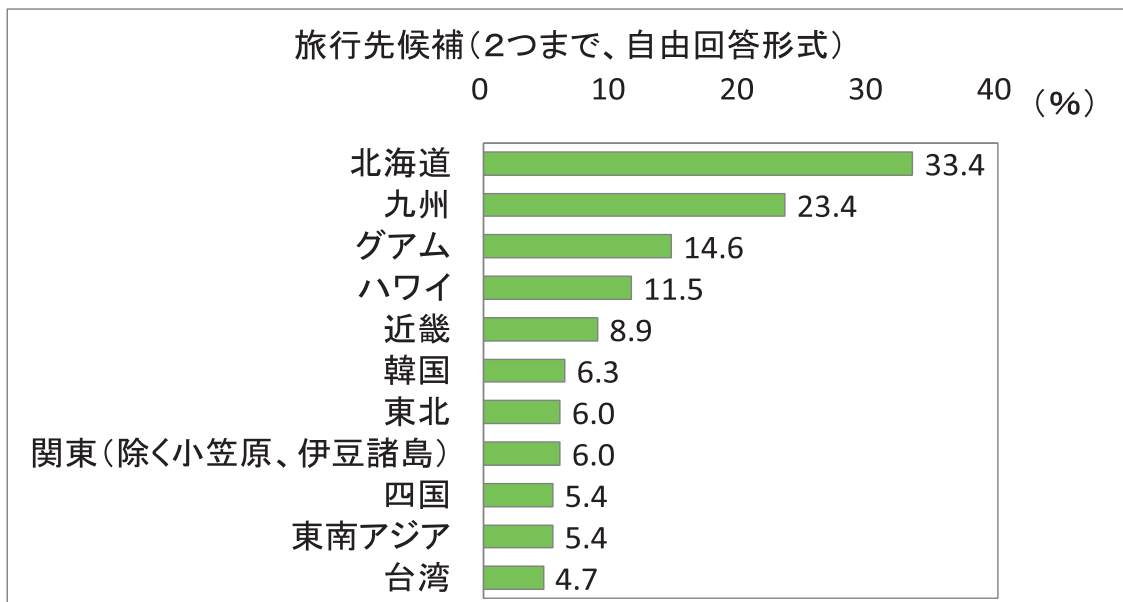
主な活動により大きく異なる沖縄の位置づけ

- 「海水浴・マリレジャー」「ダイビング」では約6割が「一番お気に入り」
- 「観光地めぐり」では「一度行っておきたい観光地」が最も多い



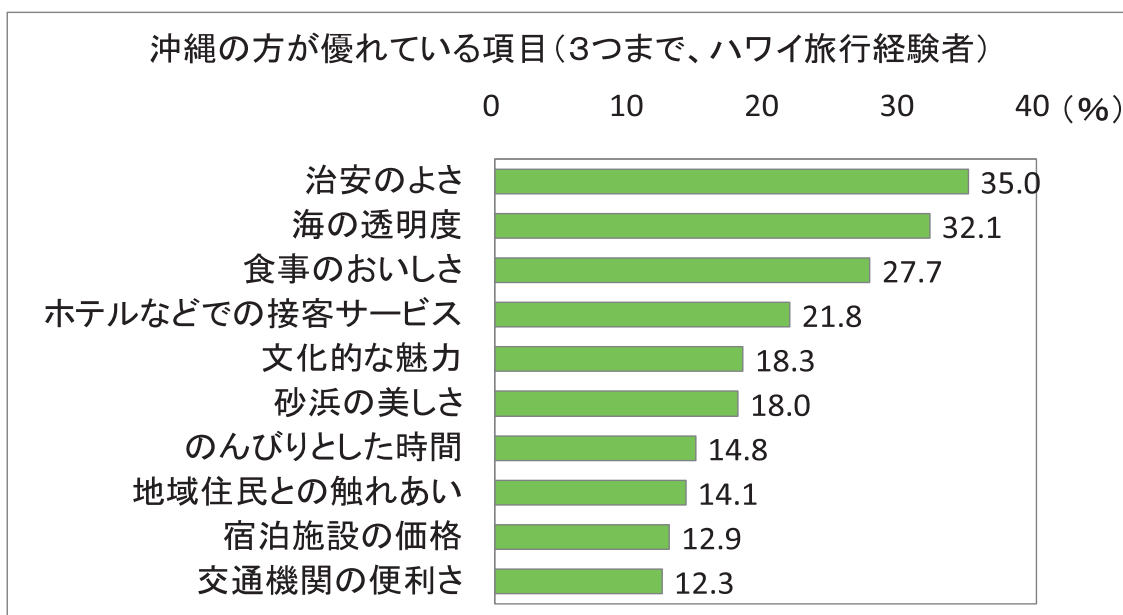
沖縄以外に挙げた旅行先候補トップは「北海道」

- 『観光地めぐり』『保養・休養』では「北海道」「九州」が人気
- 『海水浴・マリレジャー』『ダイビング』では「グアム」「サイパン」が上位に



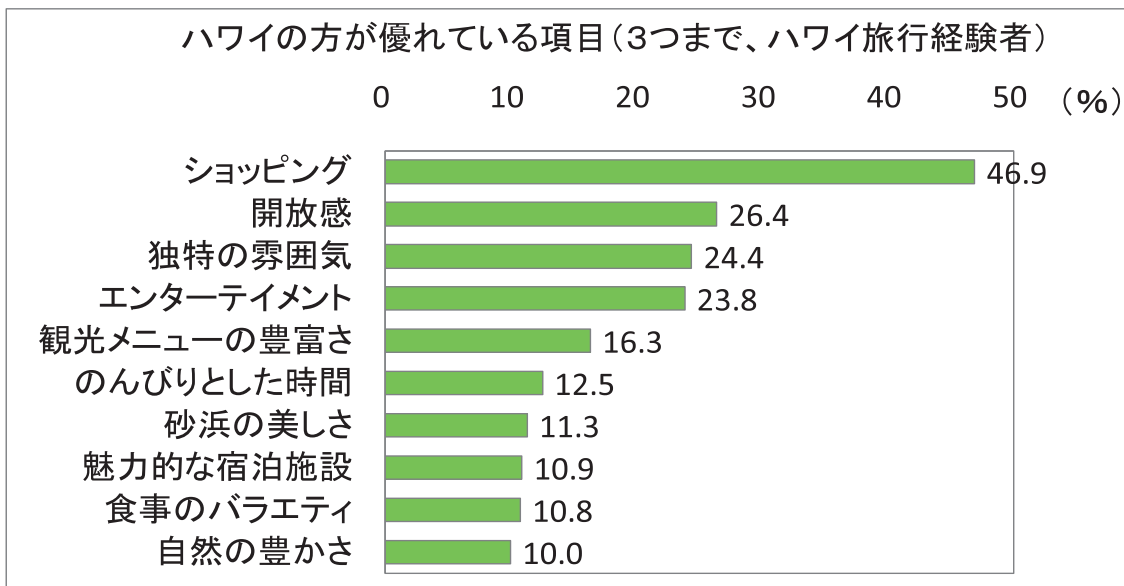
沖縄の方が優れている項目トップは「治安のよさ」

- 「治安のよさ」がトップ、次いで「海の透明度」、「食事のおいしさ」と続く



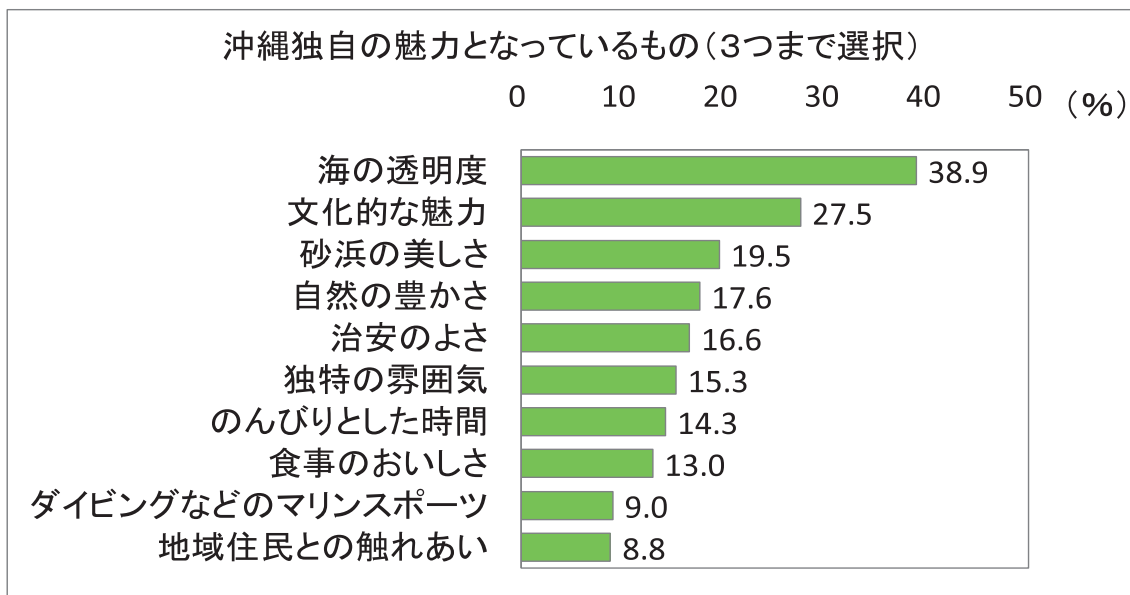
ハワイの方が優れている項目は「ショッピング」が突出

- 沖縄と比べてハワイの方が優れている項目トップは「ショッピング」
- ついで多かったのは「開放感」「独特の雰囲気」



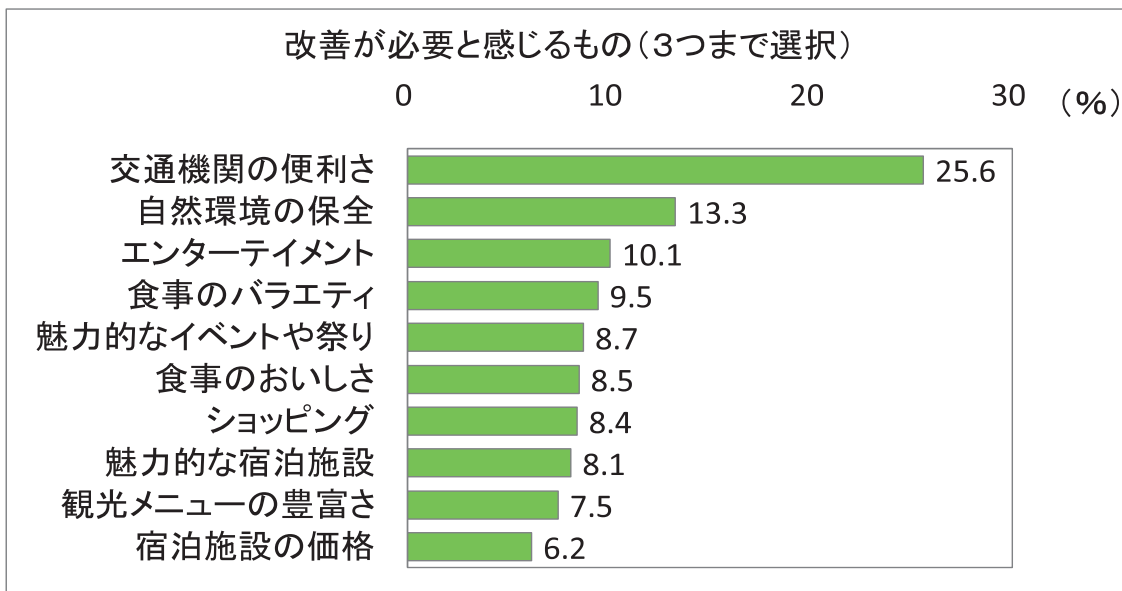
沖縄独自の魅力な点のトップは「海の透明度」

- 「海の透明度」「砂浜の美しさ」「自然の豊かさ」など自然の魅力が上位に
- 自然の魅力とともに高く評価された「文化的な魅力」



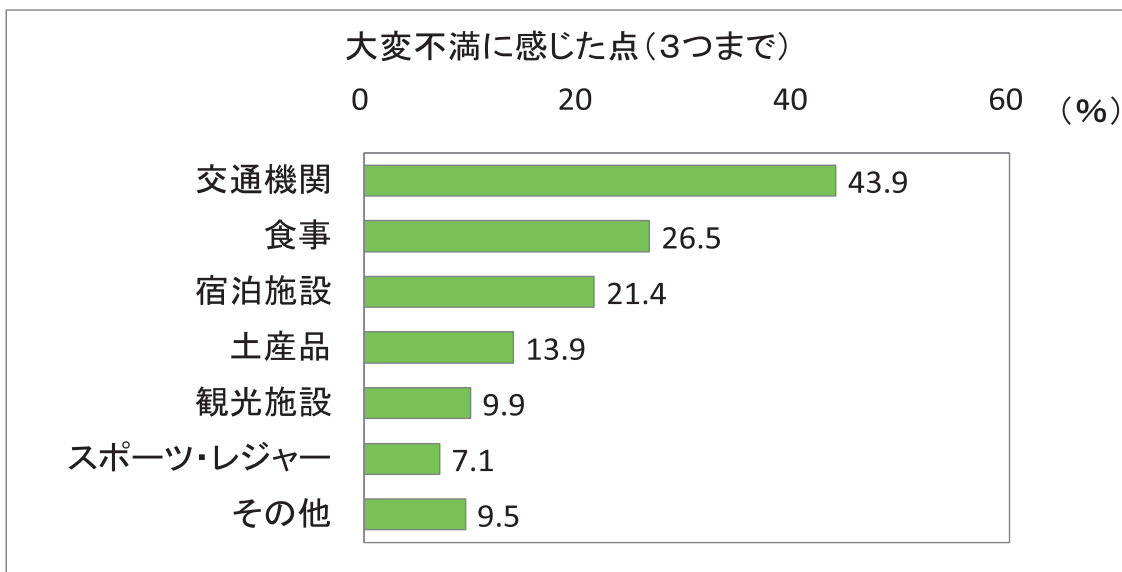
改善すべき点としては「交通機関」が突出

- 改善すべき点のトップは「交通機関の便利さ」で2位以下と大きな開き



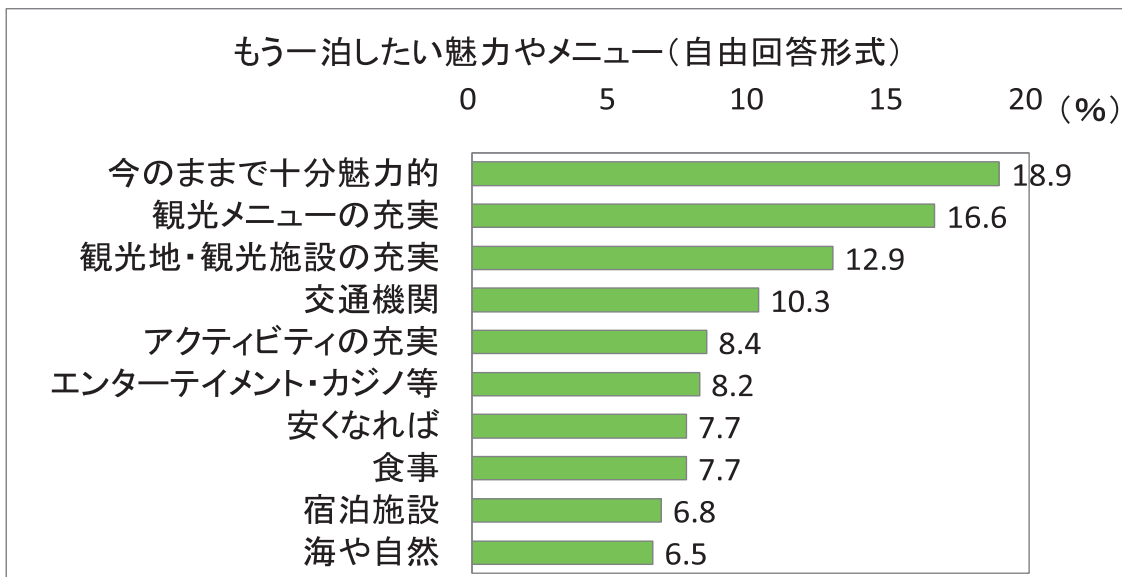
大変不満に感じた点のトップは「交通機関」

- 「交通機関」のうち、『交通の利便性向上』が約3割、『渋滞』が約2割
- 「食事」については沖縄料理以外のバリエーションを求める声が目立った



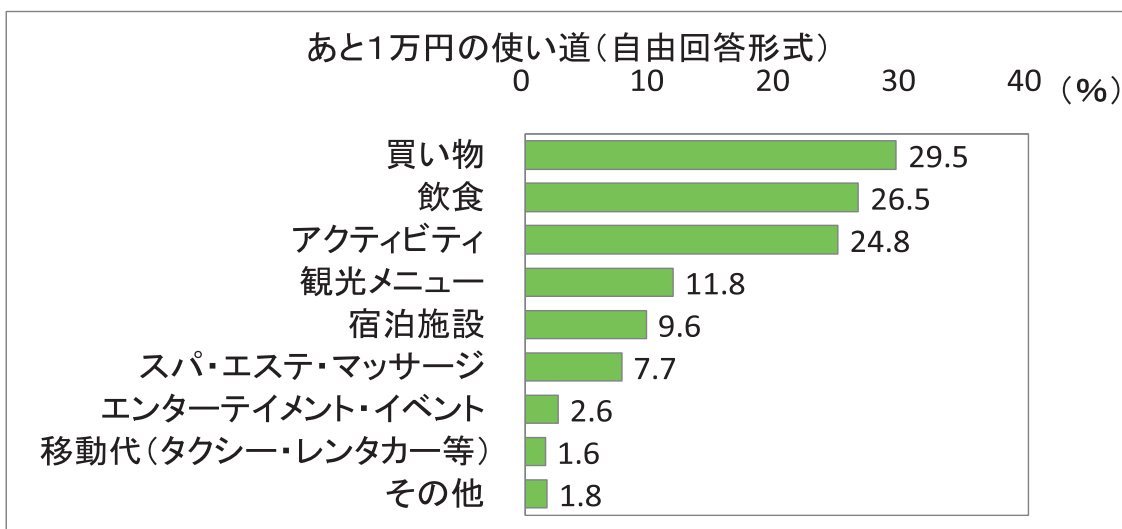
もう一泊するには「観光メニュー」「観光地・観光施設」の充実

- “魅力は十分あるので、時間とお金があれば”という意見が多く挙げられた
- 「観光メニュー」「観光地・観光施設の充実」では、悪天候時や夜間に楽しめるものを求める意見が見られた



旅行中あと1万円使うとしたら「買い物」「飲食」に使用

- 今回行った活動の質を上げたい、量を増やしたいという意見が目立った
- アクティビティではお金のかかるマリレジャーに挑戦したいとの声も





写真提供：(財)沖縄観光コンベンションビューロー

平成22年度観光統計実態調査(空港アンケート調査)

調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ● 旅行者の属性(居住地、性年代、旅行回数等) ● 旅行内容(旅行目的、同行者、宿泊日数、消費額等) ● 観光地としての沖縄の競争力 (沖縄の位置づけ、ハワイとの比較、沖縄の魅力・改善点、大変不満に感じた点、もう一泊したいと思う魅力やメニュー等)
調査時期	春期 平成22年6月25日(金)、27日(日) 夏期 平成22年8月20日(金)、8月22日(日) 秋期 平成22年11月5日(金)、7日(日) 冬期 平成23年2月4日(金)、6日(日)
調査対象	航空機を利用して県外へ出域する日本人客を対象に調査票を配布。 配付数は、各便の座席数に応じて比例配分している。 修学旅行生は調査対象者から除いている。
調査方法	調査員が搭乗待ちの観光客にA3両面1枚の調査票を返信用封筒とともに手渡し、郵送(料金受取人払)にて回収した。
配布数	12,000票(各回 3,000票)
回収数	3,737票(第1回 1,057票、第2回 697票、第3回 963票、第4回1,020票)
回収率	31.1%

沖縄県 観光商工部 観光企画課

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2

TEL:098-866-2763 FAX:098-866-2767

URL: <http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/contview.jsp?cateid=233&id=14739&page=1>

※この冊子は、調査結果のうち特徴的な部分を抜粋して作成しています。
 より詳しい内容につきましては報告書をご覧ください。報告書は上記URLよりダウンロードできます。